

舞  
舞

# たうん

Vol. **110**  
2011.10

特集 障がい者にやさしい  
まちづくり



特集 障がい者にやさしいまちづくり

今号の特集テーマは「障がい者にやさしいまちづくり」です。着る・住む・学ぶ・遊ぶ(スポーツする)・支援するなどのいろいろな視点から、障がいのある人や、障がいのある人を応援している人たちに、それぞれの取り組みを紹介していただきました。

私たちの社会には、数多くの障がい者が生活をしています。障害者手帳を持っている人(平成22年3月31現在)の人数でみると、全国では身体障がい者が約500万人、知的障がい者が約81万人、精神障がい者が約63万人の合計約644万人で、愛媛県でも合計約9万6千人となっています。この人数に手帳を持っていない障がい者を含めると、さらに多くの人数になります。

これらの方々にとって、住みやすいまちになっているだろうか。これが出発点です。障がい者を取り巻く環境はどうか?法整備や住環境整備の面でどうなのか?

また、障がい者を持つ家族、障がい者施設の職員さらには地域の人たちなどの健常者が障がい者を守るといった考え方だけでなく、障がい者と健常者が一緒に生きるという視点が必要ではないのか?

さらには、「障がい者にやさしいまち」とは、すなわち誰にとってもやさしく、住みやすいまちでもあると考えるわけです。

これから県内各地の皆さんの取り組みをご紹介しますが、これらの記事を通じて、読者の皆さんと障がい者の皆さんとの距離が今までより近づくことを期待したいと思います。そして、障がい者を含めた皆さんにとってやさしいまちづくりの一助になれば幸いです。

(研究員 河野 茂樹)

■表紙のことは

車いすでの行動範囲が一昔前と違って広がっている。しかし、車いすに乗ってのおしゃれの楽しみは今一つです。着脱の利便性に頼って、トレーナー、ジャージ、Tシャツといった定番スタイルです。気持ちは健常者。おしゃれに外に飛び出したい。

そこで車いすでのファッションショーが商店街で開催。それはそれはドキドキ楽しく。

早くこの日を待っていたとばかりのショーとなる。これからは皆さんのアイデア待っています。

柳原あやこ



新しい社会を創る

私たちのことを私たちが抜きで決めるな

愛媛大学法文学部総合政策学科准教授 鈴木 静



東日本大震災の被災地から

8月中旬、愛媛大学生たちとともに若手県陸前高田市へ行った。3月11日の地震では震度6弱。津波被害は、海沿いの平野部である市街地のほとんどを飲み込んだ。総人口約2万4千人(2011年3月11日調べ)のうち、震災の直接的な被害で亡くなられた方は1,487人、その後病气や事故で亡くなった方が146人である。行方不明者は264人であり、これは安否確認要請のあった人数にとどまる(2011年8月19日調べ)。もともと高齢化がすすみ、人口の3分の1が65歳以上だった町である。今回の震災は、陸前高田の美しい風景と住民の生活を大きく変えた。

亡くなられた方は、総人口の約14%にもなる。訪問した際は、旧盆。各地のお寺からお経が聞こえ、お墓には鮮やかな花が並

ぶ。「どの家も、新盆だから」との会話が胸に刺さる。私たちも手を合わせる。

町は悲しみとともに、一步一步復興が進んでいる。仮設の役所、診療所、スーパーマーケット、コンビニエンスストア...一つ一つの灯りがまぶしく、希望の光だといふ心から思った。

障害のある女性のプレハブ仮設住宅での暮らし

私は、陸前高田市の今は、日本社会の縮図だと痛感した。自然災害は、平等に住民へ被害をもたらすわけではない。年齢が高いほど、障害が重いほど、経済的に厳しい住民ほど、生活への被害は大きく長引き、深刻さを増し続けている。地震、津波で助かった生命にも関わらず、その後には146名の名の尊い生命が失われているのはなぜか。



仮設市役所

●アングル  
新しい社会を創る  
~私たちのことを私たち抜きで決めるな~  
鈴木 静/愛媛大学法文学部総合政策学科 准教授 1

●特集/障がい者にやさしいまちづくり  
まちづくりと障がい者  
田所 浩厚/特定非営利活動法人 ネセサリーフォー 理事長(松山市) 4  
障がい者の豊かな地域生活の継続を目指して  
~『ライフサイクル支援』への挑戦~  
米田 順哉/NPO法人 家族支援フォーラム地域生活支援センター夢ポケット 理事長(松山市) 6

心のわ  
~自分たちができることをやっていく。大きく広げようこころの輪~  
宮崎 憲士/障がい者共働オフィス「心のわ」(四国中央市) 8  
高校生が見た「障がい者にやさしい町づくり」とは  
山田 穂乃香/愛媛県立三島高等学校 VYS部(四国中央市) 10  
障がいのある人達への芸術活動支援を行う  
河部 宏子/特定非営利活動法人 アトリエ素心居 理事長(松山市) 12  
障がい者が住みやすい街は自分自身も住みやすい……  
谷本 圭吾/NPO法人 どんまい 理事(松山市) 14  
身近な障害者スポーツの魅力  
渡部 和典/愛媛県障害者スポーツ指導者協議会 会長(松山市) 16

●キラリ光るまち  
ひととまちづくり ~地域みんなで子育て支援~  
小野 志保/バソきつず(新居浜市) 18

●特選ブログ/shin 1さんの日記  
一歩前・少し前・もっと前へ  
若松 進一/人間牧場主・年輪塾々長 20

●特別寄稿  
型があつての型やぶり  
森川 保男/(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター 常務理事  
(前働えひめ地域政策研究センター専務理事・所長) 22

●“MY TOWN”うおっちゃんぐ  
海運業の家、油屋菊池清治家…八幡浜市浜之町  
岡崎 直司/タウンツリズム講座主宰・ヘリテージマネージャー 24

●TALK NOW  
遊びをとおして、まちが元気になる“あそ部”  
奥野 佳代/社会福祉法人 宇和島市社会福祉協議会地域福祉係(宇和島市) 26

●Information  
えひめ地域政策研究センターからのお知らせ 28

真剣に問わねばなるまい。

さらに、2か月にもわたる避難所で過ごした後に、プレハブ仮設住宅に移った場合にも生活の問題は引き続く。たとえば、車いすを利用する高齢女性。住宅内は画一的な台所規格のため、茶碗ひとつを洗うのもたいへんな苦労だという。陸前高田市職員はなんとかならないかと、様々な法制度を調べた。災害救助法では仮設住宅への住宅改修を予定していない、介護保険法の住宅改修についても台所の場合に使えない。さまざまな制度があれど、どれもこの女性には使えない……。さらに、津波被害のため仮設住宅は高台に造られており、車いすを利用する女性は外出も難しい。緊急で町営バスを仮設住宅と病院や商店の間を走らせているが、女性は家の中で閉じこもる。そして「施設はいやだ」と気丈に頑張る。障害があるがため、仕方がないのか。仕方がないといっているのが日本社会に問われている。

### 「災害貧乏」をつくりだす日本社会

すでに12年前になるが、阪神・淡路大震災後の被害調査をふまえ、井上英夫（金沢大学教授）は、次のように言う。「この度の震災は、日本の第二次大戦後50年の国づくりの結果に他ならず、まさに国、自治体、地域そして個人のあり方が問われている」。地震

ものであるが、権利条約を作る過程に大きな特徴がある。障害のある人たちが国際条約づくりに参加し、大きな影響を与えたことである。「私たちのことを私たち抜きで決めるな」。これは、権利条約をつくるなかで生み出された、障害のある人らの合言葉である。

### ゆたかな活動を支える 人権保障の具体化

ひるがえって愛媛県内に目を向ける。本特集でとりあげられている種々のゆたかな活動は、まさに「私たちのことを私たち抜きに決めるな」を象徴する動きといえる。障害のある人自身が、そしてそれを人権のなにか手たる専門家やボランティアとしてともに歩む人たちが、ゆたかな活動を作り出している。このうねりは、さらに大きくなるだろう。

なのに、である。なのに、陸前高田市の車いすを利用する女性のように、くらしの基盤を支える保障が不十分であることもまた事実である。松山でも愛媛県内でも、障害のある人たちが家族が、経済的心配なしに生活し社会参加できる状態にはいまだないと言わざるをえないだろう。特に地方では、諸サービスが、県庁所在地や一定程度人口がある都市に集中せざるをえない。郡部では、医療や福祉、教育を受けることがまま

は平等に起きるが、その結果としての被害（震災）は不平等であり、その不平等さは各種救済制度の運用により、その結果災害を受ける度に貧困になっていくという「災害貧乏」をいうべき実態を明らかにしている。今回の東日本大震災でも、まったく同様であると云わざるをえない。そしてそのことが腹立たしい。なぜ、障害があっても高齢でも過剰な負担なく暮らせないので、暮らせるための法制度や町づくりになっていないのか。

### 「私たちのことは 私たち抜きで決めるな」

東日本大震災を受け、愛媛を含む日本は、今後どのような国、自治体、地域づくりをするのか。その指針を示すのは、障害のある人の権利条約である。日本政府は批准を前提に、2011年現在、国内法の見直しを進めている。

障害のある人の権利条約は、障害のある人に特別な権利や地位を付与するものではない。障害のない人と同様に「人権の主体」として捉え、障害のない人との「平等」を保障しようとするものである。

この権利条約は、1981年の国際「障害者」年やそれに続く国連・「障害者」の十年、1993年の国連・「障害のある人の機会均等化に関する標準規則、E S C A



認知症高齢者の避難先になった農業体験施設

ならず、障害のある人や家族の意向を問わず、都市部に引越せざるをえないことが常態化している。また、家族のケアが期待できない場合は、障害のある人の意向を問わず、施設生活を送らざるをえないことも常態化している。

障害のある人の権利条約19条は、次のように言う。

「独立した生活（生活の自律）及び地域社会

P「アジア太平洋障害のある人の十年」等の国際的な活動の延長線上にある。出発点は、国際「障害者」年のテーマ、「完全参加と平等」だ。1980年までは、現実に町づくりも、政治も、教育も、労働の場も、障害のある人やその家族、関係者の意見が聞かれず、そして社会にほとんど影響を与えてこなかった。このことを国連および加盟各国は反省し、社会の意識改革と法制度の見直しをすすめてきた。

この流れを受け、21世紀に入りおきな成果を生み出す。人権保障の思想を、各国により具体化したのであり、それが障害のある人の権利条約である。中身も画一的な



仮設診療所

### へのインクルージョン（統合）

この条約の締結国は、障害のあるすべての人に対し、他の者と平等の選択の自由をもつて地域社会で生活する平等の権利を認める。締結国は、障害のある人によるこの権利の完全な享有並びに地域社会への障害のある人の完全なインクルージョンおよび参加を容易にするための効果的かつ適切な措置をとるものとし、特に次のことを確保する。

(a) 障害のある人が、他の者との平等を基礎として、居住地及びどこで誰と生活するかを選択する機会を有すること、並びに特定の生活様式で生活するよう義務付けられないこと。（後略）

このように、障害のある人が独立し地域社会で生活することを権利と認め、国はこのために具体的な「適切な措置」をとらなければならないことを義務付けている。まさに制度的保障を求めているのである。これは障害のある人に関わる法制度を大きく変えるものであり、また陸前高田市の高齢女性の例をあげているように、その人に関わる法制度全体を見直す必要がある。そして町づくりのあり方も……。

まさに、時代は大きな転換期を迎えている。私たちは「どのような社会を創るのか。そして「どのような社会を創るのか。やはりキーワードは「私たち抜きに私たちのことを決めるな」である。

# 障がい者にやさしいまちづくり

昨年、CF Sで得た「たからもの」はたくさんあります。施設で普通に暮らしていた人がモデルとなつてしかも何千人もの観客に見てもらえたことやこれまで一度も着ることのなかったおしゃれな最先端の服を手に入れたこと、はじめてメイクをした人もいます、大きなことを成し遂げた充実感、見ず知らずの健常者が自分のためにこんなに盛り上げて

り合つて、やさしいまちづくりのために話し合い一緒に活動することだと思えます。来週、10月10日(月)正午から松山市大街道商店街で「MMF(松山モードフェス2011)」が開催されます。このイベントは松山の若者たちが手弁当で開催するファッションショーです。ショッパの人たちと素人(と言うと語弊があるかもしれませんが)有志モデルが作り上げる松山では屈指のイベントです。今年はい児者が有志モデルとして出演します。昨年10月10日に第一回CF S(チェアウォーカーズファッションショー)を同じところで開催しました。車いすで生活している人がモデルとなりました。たぶん日本では初めてかもしれません。介護しやすいとか障がい者でも着脱しやすいとかいう「服」の紹介ではありません。ファッションショーでした。



メイクアップ2010

を得ることが少なくなる、すなわち意識が変わりにくいということ、そして何より、少しい必要の専門的サポートさえあれば自分たちの目的に沿った活動・イベントに障がい児者も当たり前に参加できるということとを体得できにくいということなのです。第1回CF SにおいてMMFの意識を変えてやろうとかいう意図は全くありませんでした。障がい児者の社会参加促進や偏見の是正を目標だことはありません。しかし、現にMMFの若者たちの意識は変わりました。障がい児者との距離は縮まりました。またモデルとの話し合いの中で商店街に公共的多目的トイレがない、あれば利便性が高まるということも発見し署名活動等をしてなんと今年度、松山市がそれを実現するに至ったのです。

今年、CF Sは、平成23年度愛媛県提案型パートナーシップ推進事業(事業名「障がい者社会参加促進事業@松山モードフェス」)に選定されました。この事業にエントリーしたのは、県内各地にこのストーリーを紹介し県内どの地域でもまちづくり・ひとづくりの企画の中に障がい児者がちゃんと存在しているという、ごく自然な状態をどうすればできるかを皆さんに知ってもらいたいと思つたからです。年度末にはCF SとMMFのすてきなストーリーをお届けできると思っていますのでよろしくお願ひします。

ショー風景2010



らう、ショーに着る服は街のショッパで買い、買うときはモデルがショッパへ行つてどんなイメージの服にしたいか店員と話し合う、店員と仲良くなることでまた街へ行く目的ができる、というルールで行うことにしました。

初めは彼が実行委員長としてCF S独自のスタッフで開催準備をしていましたが、彼が体調を崩し開催が危ぶまれた年度に持ち越そうという案も出しましたが、MMF実行委員のみなさんがCF Sを応援してくれ、縁の下の力持ちとなつて全面的に支援してくれた結果、盛大にCF Sを開催することができました。

「今回はMMFのなかのモデルとしてチェアウォーカーズ(障がい児者)が居るのが当たり前だと思ふ」

くれたことに感激。モデルさんそれぞれが手に入れた「たからもの」です。そして「たからもの」はこのまちにも授けられたと思ひます。それは、図らずもCF S終了後の次回のCF S開催についてのMMFの方々からの意見にすべてが表わされました。「CF SとMMFが別なのはおかしい」の一言です。

「次回はMMFのなかのモデルとしてチェアウォーカーズ(障がい児者)が居るのが当たり前だと思ふ」

第1回CF Sは、ほとんど障がい児者支援に関しては素人、障がい者と話したこともないという人たちのべ100名くらいの応援で完成しました。障がい児者支援のプロジェクトは数人でした。従来の障がい者イベントならばたぶん専門家の人たちがすべての必要な配慮をプログラムして何も不具合がなくどんなアクシデントにも即応できる体制を整えた上で実施するでしょう。それは正しいことなのです。が、アメリカと比べるとは障がい者の事を知らない人がそういうイベントを通じて様々な学び



フィナーレ2010

どんなまちが障がい児者にとつてやさしいまちなのか、ごくごく簡単に言うと、町内や小学校区・中学校区の町民運動会に車いすの人、目の見えない人、目も見えず耳も聞こえず体も不自由な人、認知やコミュニケーションに障がいのある人が普通に競技や役員に参加している状態です。まちの様子から見ると、バリアフリーであること、他の見守りや即ヘルプができる人が多くいる状態です。こういう状態になるために必要なことは、知ることと知り合うことです。障がいのある人がいること、障がいがあること、生活し辛さがあるのかを、どういふ手伝いや環境の改善をすればいいかを知ること。そして障がいのある人と障がいのある人がよく知らない人が知

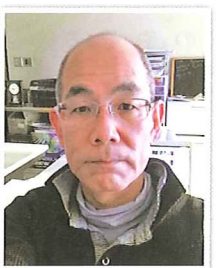
事の始まりは、一人の男性が障がいを負い、そのリハビリや各種訓練を都会で受け生活した後、松山に居を構え生活する中で、「松山はそこそこ大きい街なのに障がい者が街に居ない。出てきていない。なぜなん



ショー風景2010

宅生活をしていて重い障がい者が出ない機会が少なくなると職員も含め外に出しても

# まちづくりと障がい者



特定非営利活動法人  
ネセサリーフォー  
理事長  
**田所 浩厚**  
(松山市)

だるう？」という素朴な疑問を抱いたことでした。彼はなにか障がい者が街に出てくるきっかけができないものかと考えました。そのきっかけは多面的に考えられました。一つは障がい者自身も積極的に活動しようという気持ちになるきっかけ。一つは障がい者を支援する職員さんなどが街で遊んだりすることを障がい者に勧める気持ちになるきっかけ。もう一つは街の側が障がい者にもつと街に出てきて楽しめるようしようという気持ちになるきっかけ。それらを叶える方法として、ファッションショーを大街道商店街の中で開催する。みんなに見てもらうため、モデルは主として障がい者施設へ入所しているもしくは在

宅生活をしていて重い障がい者が出ない機会が少なくなると職員も含め外に出しても

# 障がい者にやさしいまちづくり

「楽しむ」は、現在の福祉制度の中では最も欠落している視点だと思います。人間の暮らしはただ食べれば良い、仕事をすれば良いというものではありません。仕事を終わった後の時間を楽しむ、休日の時間を楽

しむといった余暇時間の充実、人間が人間らしく生きるために欠かせない条件だと思います。



夢まーけっと

「楽しむ」という基盤を整えること。③「楽しむ」は、現在の福祉制度の中では最も欠落している視点だと思います。人間の暮らしはただ食べれば良い、仕事をすれば良いというものではありません。仕事を終わった後の時間を楽

③「楽しむ」という基盤を整えること。「楽しむ」は、現在の福祉制度の中では最も欠落している視点だと思います。人間の暮らしはただ食べれば良い、仕事をすれば良いというものではありません。仕事を終わった後の時間を楽

「楽しむ」という基盤を整えること。「楽しむ」は、現在の福祉制度の中では最も欠落している視点だと思います。人間の暮らしはただ食べれば良い、仕事をすれば良いというものではありません。仕事を終わった後の時間を楽

先に書いた①〜⑤の内容を障がいのある人と共に考え、彼らが豊かな地域生活を継続的に実現するお手伝いをする、それが私たちの追求するライフサイクル支援です。

## ライフサイクル支援を通して見えてくるもの

先に書いた①〜⑤の内容を障がいのある人と共に考え、彼らが豊かな地域生活を継続的に実現するお手伝いをする、それが私たちの追求するライフサイクル支援です。



飲み会

⑤ ④の状態を長期間継続させること。人間の生活は、「今」の連続です。色々な場面が連鎖して繋がって人生という時間

## 夢の宅菜便



媛県庁の食事が出来るカフェーゆり茶屋夢家、愛媛県総合運動公園のレストハウス「YUMEYA」、道後公園、八坂公園、総合

運動公園、コンビニ、マンションなどの清掃を請け負う「ハッピークリーン」、産直野菜等の宅配を行う「夢の宅菜便」、えひめ文化健康センターで産直野菜やお菓子などの販売を行う「夢まーけっと」などです。

これらは全てお客様と交流する、又は誰かから常に見られることを前提とした仕事です。このようにオープン化された仕事では、お客様や地域の方とトラブルが起きたり、ご迷惑をおかけすることも実際多いです。しかし、それ以上に「ありがとう」、「おしかったよ」、「頑張ってるね」といったうれしい声かけをしていただいで、メンバーたちは認めてもらうことの喜びや、必要とされる喜びを満喫しています。

# 特集2

## 障がい者の豊かな地域生活の継続を目指して『ライフサイクル支援』への挑戦

### 活動の原点

私たちNPO法人家族支援フォーラムは、知的障がいや発達障がいの子どもや兄弟がいる家族が集まって作った法人です。「今の福祉で、自分の子どもや兄弟は幸せになれるのか？」という当事者家族としての不安が活動の原点でした。

今でも様々な理由から施設入所を必要とする人がいます。しかし、見守りという名で24時間の監視を受ける生活です。「どんなきれいな環境で安全に暮らせるとしても、私たちは嫌だし耐えられない。」「だから自分の家族を施設には入れたくない。」「障がい者も地域で豊かに生活できる環境が欲しい。」そんな想いを実現するため、平成15年12月、地域生活支援センター夢ポケットが誕生しました。

### 豊かな地域生活実現のための5つのポイント

私たちは、障がいのある人が豊かな地域生活を実現するためには、次の5つのポイント、本人が決めて実行することが必要



夢家



ハッピークリーン

感謝されたり、仲間から褒められたりといった経験を積むことができず、結果として有用感や自己肯定感を持ちにくくなります。この感覚を身に付けるには、仕事等の社会的役割を自ら実践していくことが最も効果的です。私たちが障がいのある人の働く場として運営しているのは、街のうどん屋さん「めん処矢磨樹姫原店」、愛

だと考えています。

- ① 衣食住の「生活」基盤を整えること。
- ② 「働く」という基盤を整えること。
- ③ 「楽しむ」という基盤を整えること。
- ④ 「生活」「働く」「楽しむ」のバランスを取ること。
- ⑤ ④の状態を長期間継続させること。

衣食住の「生活」基盤を整えること。これについては多くの説明は必要無いと思います。特に住む場所と3食の確保は、命の尊厳性を守る最低限の保障といえるものです。



NPO 法人 家族支援フォーラム 地域生活支援センター 夢ポケット 理事長 米田 順哉 (松山市)

私たちは、一軒家やマンションを賃借して、5か所のグループホーム、ケアホームを運営しています。

②「働く」という基盤を整えること。これには、2つの意味合いがあります。1つは、生活のためにお金を稼ぐという経済的な側面ですが、ここではもう1つの意味合いを強調したいと思っています。それは、自分が誰かに必要とされているという有用感、自己肯定感を育む、という側面です。知的障がいや発達障がいを持つて生まれた人は、生まれながらの障がいのため必然的に過保護な環境で育ちます。このため人から

心のわとは

# 心のわ

自分たちができることをやってみよう。  
大きく広げよう。この輪。



『心のわ』は、5人のメンバー全員が車いす利用者です。2007年のパソコン教室で知り合い、名刺作成やホームページの作成・管理等をやってきました。しかし、団体の売り上げと会費のみの運営では先行きが見えず、今後を考えていたところ、四国中央市社会福祉課からピアサポートセンター運営のお話をいただきました。今後身体障害者へのサポート強化を考える上で、ピアサポートの重要性を認識し四国中央市では数少ない身体障害者当事者が運営する『心のわ』へ依頼が来ました。事務所の確

保と当面の助成金のめどがつき「障がいピアサポートセンター」を活動の中心とした新しい『心のわ』が動き始めました。また、先日9月11日、第1回「四国中央福祉用具展2011」を開催いたしました。当日は意思伝達装置、車いす、日常生活用具等の展示会を開催し大変好評でした。現在は、NPO法人化に向けて研究中です。

### ピアサポート

ピアサポート (Peer support) とは、Role (仲間) を援助し支えるという意味。障がい当事者による障がい者支援) で、障害者福祉の中では障害を持つもの同士がお互いのことを一番理解できるということ、多くの手法が用いられ支援の中で重要視されています。

私は14歳で車いすに乗るようになったのですが、その時は身近に車いすを利用する人がいなくて、「自分ひとりか」という気持ちで落ち込む日々が続きました。しかし、高校生になると同年代の車いすの人とたくさん出合い、さまざまな話をすることで、自分のなかで何かが変わり始めたように感



障がい者共働オフィス『心のわ』  
宮崎 憲士  
(四国中央市)

じました。私の短い経験からですが、人との出会いや仲間がいることは「障がい」に限らず「子育て中のママ」「大学生同士」等、同じ境遇の人とは話ができて共感できることがたくさんあると思います。また、ピアサポートセンターには20〜60代のメンバーがおります。ここで、新しい発見や「生きる力」を感じていただければと思います。

### JR利用

きっかけは、障がい者には数少ない移動手段の一つであるJRを利用して自分たちの行動範囲を広げようという事でした。JRを車いすで利用となると簡単ではない事がわかりました。最寄り駅の状態や乗り降りのスロープの手配など事前にJR側に連絡する必要があるとわかりました。簡単に利用出来るようにするため、定期的にJRで出かけようということになりました。まず自分たちが利用することでJR側に駅・ホーム等の不便さを認知してもらい、少しでも良くなれば車いす利用者が利用しやすくなると思えました。乗ってみると意外に「行けるじゃん!みんなが一緒の車両に乗



り、話しながら行きたい場所に行ける。たまにはこういうのも良いね」と始まった小旅行ですが、早5回になります。

1回目はこちらも慎重でしたが、慣れと怖いもので失敗談もあります。駅に「車いす利用」を伝えると、「何回も利用しているので駅員さんがスロープを準備してくれるだろう」という安心感で、当日駅に行くのと2人で持ち上げます。安心してください」と言われたのですが、私は電動車椅子(車いすの重量+本人で約160kg)を使っているの、大人2人で運ぶのは無理です。この時は、友人がたまたまスロープを持って行ったので無事乗れましたが、他にも「車いすでは行けないホームに電車が着いた」とか「前と同じ時間だから行ける」と思っていたら、ダイヤ改正で到着するホームが変わっていたとか、いろいろなことがあります。

- ①乗る時間 ②スロープの手配 ③到着ホー

ム等をJR側と利用者側がお互いに確認することが必要だと感じました。私たち全員は、乗りたいときに電車に乗れるようになることです。

### 「四国中央市車いす徹底活用術」作成

ピアサポートセンターを始めるにあたって相談の受け付けはもちろんのことですが、四国中央市にはこういう障がいをもった方がいます」というアピールが重要だという結論に達し、企画したのが当事者参加のセミナーの開催と学生と共につくるバリアフリーマップでした。

マップは障がい者の生活環境や四国中央市の現状を自分たち目線で作ろうと考えたのですが、沖縄の専門学校が作った『車いすで回る沖縄観光地の順路マップ』は、手作り感あふれる冊子で一目でその観光地のイメージが浮かび、車いす利用者も十分楽しめるという印象を受けるものでした。それから私たちの『当事者の目線』と『学生の目線』が一つになった四国中央市での車いす利用に希望の持てる冊子の作成が始まりました。作成にあたっては市内にある三島高校VYS部の協力を得ました。打ち合わせを重ね、どうせ作るならありきたりなものじゃ面白くないので「この順路で行けばスムーズに行けます」のように作っていかうという事になりました。次のページには、いっしょにマップを作った三島高校VYS部の取り組みが掲載されています。

### 第1回四国中央福祉用具展2011年

平成23年9月11日に「第1回四国中央福祉用具展2011」を開催した。自分たちで、紹介したい業者に片っ端から電話をかけたり、知人から紹介されたりで13の企業に来ていただきました。外国製の電動車いすや特殊な凝固剤を使用するポータブルトイレ、ロボットスーツ、意思伝達装置、ハンドサイクル、ユニバーサルデザイン文具、飲食・物品販売を行いました。来場者は約400名の方々にきていただき大盛況でした。「来年もよろしくお願ひします、こういうものを見たいです」などの意見も多く、また来年も企画したいと思ひます。



「心のわ」のみなさんとの出会い

# 高校生が見た 「障がい者にやさしい 町づくり」とは



愛媛県立三島高等学校  
VYS部  
山田 穂乃香  
(四国中央市)



三島高校VYS部員と先生

私が初めて「心のわ」のみなさんにお会いしたのは、年が明けてすぐのことでした。それは「心のわ」が四国中央市内の施設のバリアフリー化状況などをまとめて、市車いす徹底活用術<sup>®</sup>を作製することになり、私たち三島高校VYS部にその調査を依頼するというので、詳しい内容を聞くために顧問の先生と部員3名で集まった時でした。初めてお会いした時の印象は、明るくて穏やかな人達で、そして印象通り、とても親しみやすい人達でした。

この後早速、2班に分かれて最初の調査を行いました。最初なので「心のわ」のみなさんにも一緒に施設を回っていただきまし  
た。1班は四国中央市役所本庁と三島図書館、もう1班は福祉会館と保健センターの調査をしました。私は後の班でした。福祉会館に行った時に、障がい者用トイレを見て驚きました。鏡が斜めになっていたり、緊急用ボタンがあつたりして私が今まで使っていたトイレにはない、いろいろな工夫があちこちに施されています。一番驚いたのはオストメイト——人工肛門や人工膀胱の人——対応トイレでした。

## いざ！調査開始

四国中央市は平成16年に伊予三島市、川

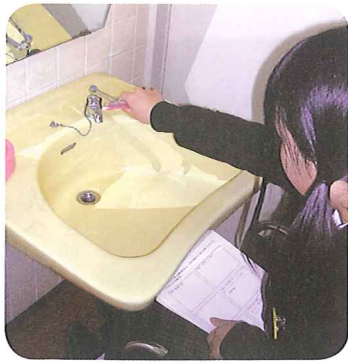


このように、この調査を通して私は多くのことを初めて知りました。

之江市、土居町、新宮村の4つの市町村が合併してできた市です。ですから、それぞれの地域に支所や図書館があります。そこで私たちはグループに分かれ、調査をすることにしました。

三島グループは最初に書いた4カ所を含めて8カ所、川之江グループは10カ所、土居グループは5カ所、新宮グループは3カ所の調査を行いました。その中でも特に印象に残っているのは、伊予三島運動公園の調査でした。体育館と外周周辺(体育館の外)の調査をした時です。今まで運動をする場として使っていた私達にとっては便利だと思っていたのですが、車いすに乗ってみるといろいろな障がいがありました。

体育館内ではエレベーターの入り口が狭すぎて車いすに乗ったままでは通りづらいし、また扉が閉まるまでの時間が1秒しかないため、車いすに



乗って1人だと出入りが難しかったです。外周周辺では路面がガタガタしているとか、車いすでは通れない道(幅が狭い、段差があるなど)があつたりと意外と不便な部分がありました。私たちが普通に使つて、全く不便を感じないことでも、車いすに乗つてだと不便だったり、困つたりするのだというのを感じました。

## この調査を通して

このように、この調査をしたことで学ぶことは大変多くて、自分の視点も変化するようにになりました。例えば道路の側溝の金属製の蓋(グレーチング)は、隙間に車いすの前輪がはまってしまいます。私は、「隙間の幅をもっと細くすれば車いすでも安心して通れるようになるのではないか」と考えるようになりました。このことは私だけでなく、調査に参加した部員全員が思ったことでした。それと、「道路がガタガタして、進みにくかつた」ということは全員が口を揃えて言いました。

私は今まで道路の路面状態を気にして歩いたことは一度もありませんでした。車いすでは土の上や舗装されていない道などは

とても進むのが難しくなるということも、この調査をして初めて気がつきました。

## 「心のわ」のみなさんとの話

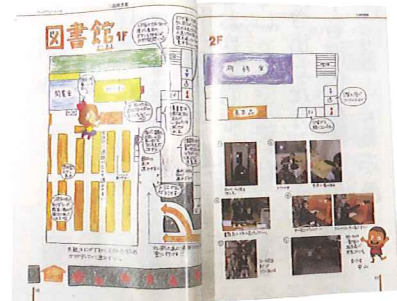
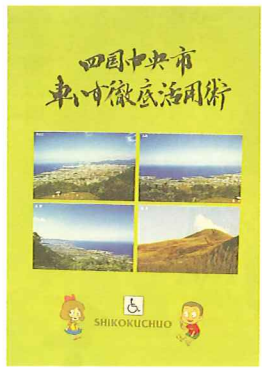
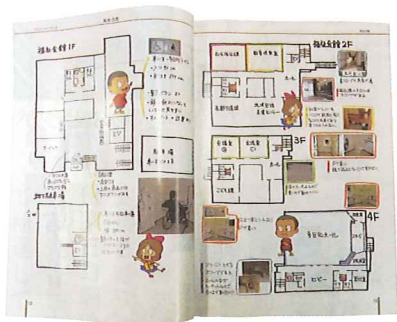
調査中、「心のわ」のみなさんといろいろな話題について話をする機会が多くなりました。

「障がい者用のトイレを障がいのない人が使つてもいいと思いませんか」と聞かれた時に、私は「はい」と答えました。理由は、障がい者用のトイレだし、使っている最中に障がい者の方が来られたら申し訳ないと思つたからです。しかし、「心のわ」の方からは、「障がいのない人にも使つてほしい」と言われました。実際に利用して、どういうものかを知つてほしいそうです。

また、もし誰にも使われなかつたら、物置になつてしまつてトイレとしての機能を失う恐れもあります。私は「共生」ということを改めて考えさせられました。私にとつてこれは新しい視点となりました。

## これからの福祉と地域

私は社会福祉士を目指していますが、今



バリアフリーマップ「四国中央市車いす徹底活用術」

回の活動は私にいい刺激を与えてくれました。そして私に「いままで見えなかつた視点」を認識させてくれました。

これからの福祉が目指す「やさしい町づくり」は、私にもできることが沢山あります。まずは誰かに伝えましょう。親、兄弟、友達など多くの人に。そしてどうすればいいか話し合つて実行しましょう。福祉は制度だけでは成り立ちません。一人ひとりの思いやりと気配り、知ること、伝えること、考え実行することが重要です。私は今、周りの人に伝えることから始めています。

# 障がい者にやさしいまちづくり

「アトリエ素心居」2階ホールにあるランドピアノを使って「絵本の語り読み会とミニコンサート」「夕涼みコンサート」「クリスマスコンサート」等を専門の演奏者、朗読者のご協力を得て開催しています。これらは地域の人々と障がい者が気軽に



夕涼みコンサート

また、啓発活動として、障がいのある人が制作した優れた陶芸や絵画の作品約200点を「ふしぎなせかい展」と題して、アトリエ素心居2階ギャラリーで展示、紹介し、参観者の共感を

「アトリエ素心居」では、障がいのある人達と地域の人たちが、一緒にアートに触れることができる交流の場となることを目指し活動しています。

このように「アトリエ素心居」では、障がいのある人達と地域の人たちが、一緒にアートに触れることができる交流の場となることを目指し活動しています。



みんなであたらこうIN愛媛2011 ポスター

太鼓を愛し生き生きと頑張っている仲間達との年に一度の「お祭り」として、定着してきました。参加者の個性ある優れた才能や可能性を引き出し、さらなる前進を願っています。今後とも「みんなであたらこうIN愛媛」の開催を温かく見守っていただき、ますますようお願い申し上げます。

当日は、皆様のご来場を心よりお待ちしております。



みんなであたらこうIN愛媛2010

## 特集5

# 障がいのある人達への芸術活動支援を行う

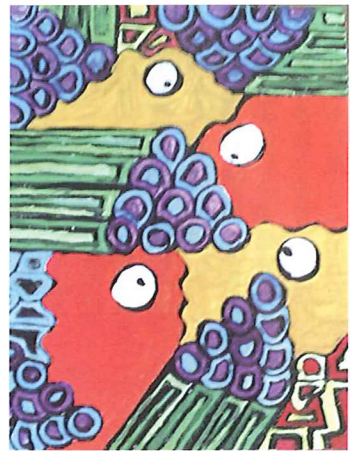
### 「アトリエ素心居」の設立

特定非営利活動法人アトリエ素心居は、障がいのある人の隠れた感性や可能性を引き出すための創作支援活動と障がいのある人への理解を深めるための啓発活動をアートを通じて行っています。



2階ギャラリー (絵画と陶芸作品)

これまで、アトリエ素心居として低い評価しか得られなかった障がい者の芸術活動が、近年、注目され始めています。しかし、障がい者は、制作に打ち込める場所や発表の機会に制約を受けているのが現実です。例えば、特別支援学校を卒業してしまうと、趣味や余暇として芸術に接



4人のぶどうがり

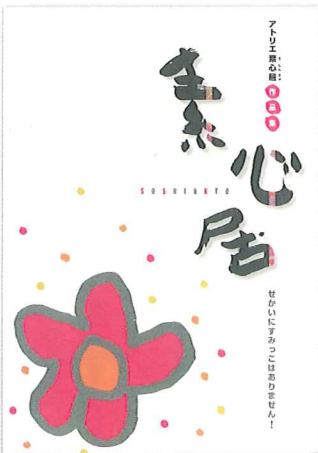
することがほとんど無くなります。優れた才能や感性を持っていないのが現状です。それは、そのような場や理解者が、まだまだ少ないことに起因すると思います。

そこで思いついたのが、アートの視点から、障がい者の新たな生き方を見つけ、文化的で人間性の感じられる活動の場を造ろうということでした。そして、行き着いたのが蔵をイメージした木造二階建ての「アトリエ素心居」を建てることでした。

平成13年7月に完成した「アトリエ素心居」という建物の名前は、「飾りのない素のままの気持ちで集まれるところ」との意味

### 「アトリエ素心居」での活動

「アトリエ素心居」の工房では、毎週土、日曜日に障がいのある人たちへの芸術活動支援として、専門講師による陶芸や絵画の制作支援を行っています。また、二階ホールでは、毎月一回、第三日曜日に音楽教室の講師経験者をお迎えして、音楽ムーブメントを開催しています。これは、障がい者の潜在能力を引き出したオリジナル性の高い作品づくりや音楽的な表現の支援をす



アトリエ素心居作品集



特定非営利活動法人  
アトリエ素心居  
理事長  
河部 宏子  
(松山市)

で、障がいのある人達の視線にあわせた「素直な心」で集える場所でありたいとの思いが込められています。



# 障がい者が住みやすい街は 自分自身も住みやすい：



どんまい主催松山市の精神保健福祉大交流会『夕涼み会』2011.08.27

障がいとは大きく分けて身体障がい、知的障がい、精神障がいの3障がいがあります。身体障がいは比較的的理解されやすいのですが、知的障がいと精神障がいの違いはなかなか理解されていきません。生来の発達、能力の障がいを知的障がい、後天的に起こる精神科疾患に由来する障がいを精神障がいといえます。身体障がい、知的障がいの福祉の歴史は入所施設という形で長年続いてきました。精神障がいの場合は精神科病院への



うどん打ち体験・みんなでコネコネ

入院という医療の中で処遇が行なわれてきたため、歴史的に福祉という考え方はほとんど皆無と云っていい状態でした。しかし双方とも隔離収容するという考え方が長く続いたことは確かです。地域では家族や市民がボランティアで集まり、場や小さい作業所を細々と手作りするしかありませんでした。

平成18年にできた障がい者自立支援法という法律により3障がいの福祉を統一するという考え方ができました。この制度も問題は山積みで、来年法律が変わるそうですが、精神障がいのある人たちに福祉という制度を適用されたことで今まで進められなかった自分の暮らしを取り戻すことへの応援ができてやすくなったことは確かです。愛媛県には約5000人分の精神科の入院ベッドがあります。入院をしている人の



NPO法人 どんまい 理事 谷本 圭吾 (松山市)

中で、病気自体はよくなっているのに、引き取る家族がいなくて、一人暮らしは難しい……等が理由となつて、何十年もの間入院できず、入院というくくりの中で病院の中で生活せざるを得ない人達が未だにたくさんいます。

例えば25歳から60歳まで病院の中の生活しかない人生を考えてみてください。NPO法人どんまいは立ち上げて6年目になりますが、その人達が地域で自分らしい生活を取り戻すために、5人から7人という少人数で共同生活ができるケアホームを5施設30人分、日中の活動の場として就労継続支援B型事業所を2施設運営しています。

## ケアホーム「こだち」での出来事

そのうちのケアホームの1施設「どんまいハウスこだち」は平成19年4月に開設してから5年目になります。街中の住宅街で精神障がい者のケアホームを開設するにあ



打ちたてうどんはうまい!!

たつて、地域の人との信頼関係や調和についてはとても気を使いましたが、民生委員さん、町内会長さん他、地域の方に何とかご理解いただきスタートすることができました。その施設で新しい生活を始めた7人の方は長い間精神科病院に入院していた方ばかりで、街での暮らしにそう簡単

刈りを始め2時間程で道は綺麗になりました。そういうことを何度か続けるうちに、前のおばあちゃんがメンパーに声をかけてくれました。「いつもきれいにしてくれてありがとう。一人では大変だったのよと。それから5年、いまでは『こだち』の入所者にはたくさん地域の人が声をかけてくれます。先日の市民大清掃の時は『こだち』さんも、いつもありがとうと地域の方が声をかけてくれるながら一緒に道の草刈りを行いました。町内会のイベントにも積極的に参加し、地域の中に溶け込んでいる実感が



市民大清掃・草茫々の道が...



地域の人たちとこだちのメンバーでこんなにすっきり



NPO法人 どんまいHP <http://www.npo-donmai.com>

障がい者が住みやすい街は自分自身が住みやすい街です。『NPO法人どんまい』では活動を皆さんに知ってもらうためにHPを開設しています。是非覗いてみてください。

## 住みやすい街って？

地域に新しい施設を作ろうとする時、地域の人の理解を得るということは大変難しいことです。それは障がいをもつ人たちのことがあまりにも知られていないからです。怖い存在と誤解され、「何かあった時の責任はだれが……」などという言葉も耳にします。でもそれは障がいというものを理解されていないからです。付き合ってみればそういう気持ちはなくなってしまうのですが、知らないということがただけ社会をせまくしてしまうということをいつも感じます。

## 障がい者にやさしいまちづくり

少しづつ生活にも慣れてきた頃のことです。『こだち』の前には細いところで1.5mくらいの生活道路があります。細いけれど地元の人にとっては便利な道なので通行量は多いのですが、いつも草がボウボウで、それまで前の家のおばあちゃんが時々一人で草引きをされていたようでした。でも広い範囲なのでとても追いつきません。それを見かけたスタッフは入所者のみんなと相談しました。「おばあちゃんが一人で草引きは大変そうだね、みんなも毎日通らなければいけない道だからみんなで行おうか……」。みんなが賛成し、数日後、全員スコップや草削りをもって一面に生えた草

# 身近な障害者 スポーツの魅力

## 障害者スポーツの歴史

日本で障害者スポーツが積極的に行われるようになったのは、昭和39年のオリンピック東京大会の直後に開催された、第2回パラリンピック東京大会以降です。その時の日本選手は身体障害者更生施設の入所



者で病院の患者さん達でした。その後、病院や施設では、医学的リハビリテーション(機能回復訓練)の一環としてスポーツを取り入れられてきました。昭和40年からは、国民体育大会(秋季大会)が開催された地で身体障害者の全国スポーツ大会が開催されるようになりました。

に続いており、それは障害のある選手が競技を通じスポーツの楽しさを体験するとともに、多くの人々が障害に対する理解を深め、障害のある人の社会参加を促進することを目的に開催される大会です。ですから、一人でも多くの身体障害者に参加機会を与えるという観点から、障害者スポーツへの登竜門といえます。記録を目指す競技者には種目別の選手権大会や、ジャパンパラリンピック大会等が開催されており、成績次第では世界大会へとつながっております。



のことを、ルールや用具を工夫することで、安全に楽しく、公平にできるようにしているものを広く「障害者スポーツ」と呼んでいます。ここでいくつかの種目を紹介します。



陸上競技 各種目は同じ程度の障がいのある人同士で競技が出来るように、障害の程度別にクラス分けがされています。障害の特性に応じた工夫をしたもの、視覚障害者には音源で方向や場所を知らせる事や、方向を誘導する伴走者と走る競技など、障害に配慮した種

目のあります。

### 障害者スポーツの工夫

「障害者スポーツ」という言い方をしますが、障害者のための特別なスポーツがあるわけではなく、障害があるためにできにく

目があります。

車椅子バスケットボール ルールは一般のバスケットに準じていますが、ダブルドリブルがないとか、選手には障害のレベルに応じた個人持ち点(1〜4.5点)が決まられ、試合に出ている5人の持ち点合計が14点を超えてはいけないなどとなっています。

### 愛媛県の取り組み

①昭和40年の第1回全国身体障害者スポーツ大会に10名の選手を派遣してから以降毎年参加し、全国的障害者スポーツ大会も第1回から参加、平成13年に統合された全国障害者スポーツ大会にも第1回から毎年参加しています。

②昭和57年10月に愛媛県身体障害者福祉センター(A型)が全国で7番目の施設として設置され、県内の障害者スポーツの取り組みが本格化し、各種スポーツクラブが誕生しました。そこで鍛えられた選手達は、チームとして全国障害者スポーツ大会で優勝したり、個人競技ではパラリンピックや各世界大会で入賞している選手も出ています。



③平成5年に愛媛県身体障害者スポーツ協会が発足し、障害者スポーツの啓発活動や、各種競技大会の参加・協力および支援を行っています。平成8年には愛媛県障害者スポーツ指導者協議会が発足し、全国障害者スポーツ大会に監督・コーチの派遣や県障害者スポーツ大会を主管しており、地域の障害者スポーツの振興を支えています。

### 今後の展望

平成29年に全国障害者スポーツ大会が愛媛県で開催されます。今後の取り組みとしては、団体競技に出場できるチームは、開催県と全国8ブロックの優勝チームとなっているので、県内にチームのない種目の団体のチームづくりを行うことと、現在活動しているチーム及び個人選手の強化、審判員の養成、より専門性の高い中級障害者スポーツ指導員養成、ボランティア養成(手話通訳、要約筆記、点訳、大会サポート等)、その他様々な問題をクリアして、大会を成功させたいと思っております。

### まとめ

本年8月から韓国・大邱で開催された世界陸上男子400mに両足が義足の選手が初めて出場し、準決勝にまで進む活躍をしました。レース前に「この舞台に立つことで、健常者と障害者スポーツの融合の象徴となることを誇りに思う」と話していました。当然義足ができるまでの過程も大変ですが、参加標準記録を上回り、出場するまでの努力は並大抵のものではなかったと思います。

障害のある競技者が勝利のために努力する姿は、障害のない競技者となら変わるものではありません。スポーツの世界にもノーマライゼーション(注)の理念が浸透することを願っています。

愛媛県障害者  
スポーツ指導者協議会  
会長  
**渡部 和典**  
(松山市)

(注) 障害者を特別扱わず、健常者と社会生活を共にするのが当たり前という考え方。

## 障がい者にやさしい まちづくり

卓球 一般卓球とサウンドテーブルテニス(盲人卓球)があり、一般卓球は肢体不自由、聴覚障害、知的障害、視覚障害(弱視)の選手がいます。一方、サウンドテーブルテニスは空間にあるボールを打つことが困難な視覚障害者を対象にしており、ネットの下を転がしながら打ち合う競技です。



アーチエリー 肢体不自由、聴覚障害のある人の競技です。一般のアーチエリー競技規則に準じますが、弓を引くための道具を使ったり、口や義手で引くことができ、上肢の筋力の弱い人はコンパウンドボウ(弓に滑車がついている)も使えます。

車いすテニス 車いすで行うテニスで、ツーバウンドまでに返球が認められている以外はコート内の広さやネットの高さ、ルールも一般のテニスと同じです。

柔道 視覚障害者による競技です。競技は障害の程度別ではなく、体重別で行われます。ルールは一般とは同じですが、対戦の前に一度組み合い、相手の位置を確認した後、組手を離し「はじめ」の合図で開始します。

ひととまちづくり

地域みんなで子育て支援

パソきつず(新居浜市)

小野志保



夢を持って生きていくことが出来る未来と、今だから出来る貴重な体験。地域を大切に、地域への愛着と地域との交流、専門家のも様々な体験をすることで、危機や困難に直面したときに乗り越える強い心と強く生き抜く力。

数年前の悲しい事件をきっかけに情報社会での子供達の被害を未然に防ぐために発足したのが『パソきつず』です。日々報道される虐待や人生を自らリタイヤしてしまう悲劇。私達に今できることは何か・・・そんな想いで試行錯誤しながら駆け抜けてきました。でも、いつしかそれは、子供達だけのものではなくなりました。たくさんの方の出会いとご縁があり、ご指導下さる先生方やご賛同いただく団体や個人、そして企業、商店街、行政など、会員数は口コミで増加し、活動範囲は広くなり、内容も年々充実したのになってきています。

主な活動内容としては、毎月の定例講座があります。講座は「本物を知って欲しい」との考えで、全て専門家の先生方へお願いしています。

竹の団体さんによる凧と竹の器作り。木工の先生によるマイ箸作り。手芸の先生に



手作りのケーキで祝ったクリスマス会

よる箸袋作り。フラワーアレンジメントの先生によるクリスマスツリー作り。イラストレーターさんによるエコバック作り。ダンサーの方によるダンス教室。韓国栄養士さんによる韓国料理教室。アロマセラピストの方によるハーブの石鹸作り。農家の方による多肉植物寄せ植え教室。農学博士による椎茸栽培と収穫。勿論パソコン教室等々を開いています。

たまには外に飛び出しているそうめん流し大会に、工場見学、イチゴ狩り、子供達が一番楽しみにしているクリスマス会等も行い、地域で子供達の安全を見守ってくださっている見守り隊の方々のお話や月替わりでいろいろな体験をしています。年齢、性別に関係なく、いろいろなことへの挑戦です。体験は興味そして自信。触れること感ること。親子で体験する大切な時間として参加する保護者の方々のお悩みも地域の方々と一緒に解決出来るようにと考えています。

そして、地域での各種イベントへの参加や地域公民館での夏祭り・文化祭等への参加や独自に地域で企画するイベントや市が協賛するイベント、地域の朝市への参加等

紙。そして、『パソきつず』の子供達からのお手紙。

「せんせい、いつもありがとう。だいすき」  
「そうめん流し大会では、朝早く起きて、小さな手で頑張って作ってくれたのですね。女の子から、ちっちゃな世界一美味いおにぎりをいただきました。男の子から綺麗に包まれた体験講座で作ったバレンタインのチョコプレートが届きました。」

私は破天荒な切り込み隊長です。これからも、突き進みます。全ての出逢いとご縁に感謝します。ありがとうございます。私

はこれからもこの町で生きていきます。『パソきつず』の軌跡は奇跡を起こします。

http://www.pasokids.net/ E-mail : info@pasokids.net



韓国料理教室の後の満腹笑顔



第7回はまさい。パソきつず会場



ふれあいマッサージ教室



エコバックコンテストにて最優秀賞受賞

12月・1月  
パソきつず一大体験ゾーン決定!

を行っています。

『パソきつず』の中には、心が風邪をひいてしまっ少しお休み中の方。何か始めたいけれど社会に飛び出すきっかけがない方。事業を始めたばかりでノウハウを知りたい方。新商品を開発したい方。お客様の直の声を聞きたい方。ハンディを個性とし新しいことに挑戦したい方。前を向いて歩きたい方・・・様々な方がいらっします。『パソきつず』は、一緒に歩んでいきたいと思っています。

イベントへの参加は、それらのまず一歩と考えています。そして、異業種の方々と交流することで刺激と再発見をし、その結果、コラボレーションされた商品も多々あります。

子供達もイベントの中では、自らお手伝いすることで「働くこと」を体験し、自らが

児童虐待防止のオレンジリボンを作り呼びかけています。

生活の基盤としてのまちづくり。地域に住むひと全員が幸せに暮らせるまちづくり。笑顔で将来の夢が語れるまちづくり。地域を大切に想い、未来の子供達に残したいまちづくり。そして、守りたいまちづくり。

誰かだけが満足して誰かに蹴寄せというのではなく、みんなが、楽しみ、共に喜ぶこと。力を合わせることに。

動かすのは「ひと」  
変えるのも「ひと」  
守るのも「ひと」

『パソきつず』は、これからも信念は変えずに出逢いとご縁を糧にして更に進化します。

今日、絵手紙をいただきました。  
「お誕生日おめでとうございます。先生と



人間牧場主・年輪塾々長  
若松 進一

## 一歩前・少し前・ もつと前へ

障害者に温かい心を

私が初めて障害者と関わったのは、青年団活動をしていた二十三歳の頃でした。愛媛県社会福祉協議会に勤めていて、ボランティア活動に詳しくなつた楠野さんとひよんなことから知り合いとなり、松山市内のある障害者施設へ「ボランティア活動に参加して欲しい」と誘いを受け出かけたのです。障害者へのボランティア活動がどんなものかも分からぬまま、当時漁師をしていた私は、少しお洒落なよそ行きのカジュアルな服装で他の二人とともに出かけました。そこには私たちが日ごろ目にするのではない、障害を持つて生まれた子どもたちが沢山いて、人懐っこい笑顔で私たちを迎えてくれたのです。見学のつもりで軽い気持ちで出かけたのに、施設の人は私たちにエプ

ロンを渡し、いきなりお世話をしよう頼むのです。私たちも気がつけばその気になつて、一生懸命障害者のお世話をしていました。折角いい服を着て行ったのに、いつの間にかエプロンも洋服も汗とよだれと鼻水がべつとりついて、とてもそのままでは帰れないほど汚れに汚れてしまいました。

その時知り合った子どもとすつかり意気投合して、「進ちゃん(私)」「誠ちゃん(子ども)」と呼ぶ間柄となり、私はその後、1ヶ月に1回のペースで3年間その施設へ通ったのです。3年余り経ったある日、施設の人が誠ちゃんが亡くなったと電話をしてくれました。私は施設の人に誠ちゃん

の家の住所を聞き出し、まだ車の運転免許を持っていないため、列車やバスを乗り継いでヒマワリの咲く山道を登つてお墓参りに参列しました。お父さんは棺に入った子どもを前にして、生まれながらにして障害を持つた子どもの親心を、涙ながらに心情的に露わしていましたが、親の心を察すると私も涙が出て仕方がなく、傷心の気持ちで元来た山道を引き返しました。毎年ヒマワリが咲く夏の頃になると、屈託なく明る

い笑顔で「進ちゃん」と慕ってくれた「誠ちゃん」のことを思い出すのです。

先日偶然にも「誠ちゃん」のお父さんに会いました。市駅の前の街頭に立つて募金活動をしていました。しばらくの間立ち話をしました。お父さんは自分が食べるために働かなければならず、止むに止まれぬ事情で施設に子どもを預けたことを悔やんでいるようでしたが、その後定年で仕事を辞めたのを機に、障害者を支援するボランティ

ア活動に参加するようになり、今は若くして亡くなった「誠ちゃん」への罪滅ぼしだと思つて、頑張つていくことでした。

健全な体に産まれた人にとつて耳や目や手足、心臓といった身体や言葉の障害等は本人や家族にとつても、社会の冷たい差別の目もあつて筆舌に尽くし難い苦しみなのです。その苦しみを共有して優しい心を育てるためには家庭・学校・地域の教育の力が必要です。最近では障害を持つた子どもも親や子どもが希望すれば、ある程度健全な子どもと一緒に学校へ行くこともできし、自立支援の施設設備も随分整備されてきました。まだまだ道半ばといったところのようです。

心づかいと思いやり

今年の3月11日、東日本大震災が起きました。地震と津波に加え福島原発事故という未曾有の災害に多くの人が被災し、復興の足音が聞こえるもののおおきな影を落としています。「がんばろう日本」を合言葉に多くの人の善意が届いています。震災後間もなくはテレビのコマーシャルも自粛気味で、金子みすゞの詩が登場したりして復興の後押しをしていました。その中に「心づかい」と「思いやり」というのがありました。

「心」も「思い」も目には見えません。心は体の一部ではなく脳の働きによつて感じる

五感なのです。人間の心には善と悪があつて、絶えずせめぎ合いをしています。心というコップには善という色の水と、悪という色の水が混じることなく存在しています。善の水が多い人は善人で、悪の水が多い人は悪人です。悪いことをしてはならないと心では分かつていても、悪の水が善の水を上回ると悪の方向へ向かいます。さしずめ私は超自我を極めるような極端な善人でも悪人でもないので、何かの拍子に悪の水が多くなると悪人になる可能性が多分にあるのです。

コマーシャルに出ていた「心は見えないけれど心づかいは見える」はけだし名言で、車椅子で坂道を登つている人を見ると、「車椅子を押してあげたい」という気持ちになります。また電車に乗つて座つていて、立つている身重な人や体の不自由な人を見ると「席を譲つてあげたい」という気持ちになります。でもいくら心があつても、それを使わなければ心は人の目に触れることはないのです。車椅子を押す、席を譲る行為を「思いやり」「心づかい」といいますが、心づかいは周りの人の目に触れるといふ連鎖となつて社会を良くしてゆくのですね。心づかひも思いやりも最初の一步を踏み出すには勇気が必要ですが、やってみると案外楽しく、「ありがたう」の言葉が返つてくるとう最高です。震災を目の当たりにして殆んど日本人は思いの心を持ちました。ワンコインの少ない義捐金やトイレット

ペーパー1つを差し出した協力も、休暇を返上して被災地へボランティア活動に出かけた人の行動も、その心づかひや思いやりが被災した人々をどれ程勇気付けたことでしょう。

トイレに書かれた言葉

広島の小さな公民館に出かけた時、三つある小便器にそれぞれ「一歩前」「もう少し前」「もつと前へ」と書かれているのを、用を足しながら見た私はハッとしました。何気ないこの言葉は健全者にも障害者にも大切な心の持ち方のように、障害者も健全者もお互いにこのことを心がけながら、平等の立場で暮らせるような明るい世の中になつて欲しいと願っています。

若い時 ボランティアした お陰かな  
心豊かに 多くの人と  
目に見えぬ 心と思ひ 踏み出せば  
心づかひと 思いやりなる

一歩前 もう少し前 もつと前  
トイレで学ぶ 三つの極意  
車椅子 乗つて初めて 不自由が  
分かる体験 そこから始め

(若松進一笑売啖呵より)

# 型があつての型やぶり



（前）**（財）えひめ地域政策研究センター**  
常務理事 森川 保男  
専務理事・所長

## 退任と退職と

私は本年3月末日をもって（財）えひめ地域政策研究センターの専務理事・所長を退任した。と同時に、愛媛県職員としての37年間の勤務を定年退職という形で終えることとなった。

センター所長としての2年間、愛媛県職員としての37年間、多くの人々との出会いがあり、お世話になった方々は数え切れない。全ての方に心から感謝とお礼を申し上げます。

## センターでの2年間

### (1) 地域活性化

―四国4県の代表的なカリスマに会う―  
センターの事業は、地域づくり・まちづくり活動の支援が大きな柱となっている。センター在任中に、この分野で活躍されている人に数多く出会った。その中でも四国の4人の方が印象深い。  
徳島県…「そっだ、葉っぱを売ろう」の横石知二氏  
高知県…「ごつくん馬路村」の東谷望史氏  
香川県…「高松市丸亀町商店街再開発」の古川康造氏

愛媛県…「昇る夕日でまちづくり」の若松進一氏  
皆さんに共通しているのは、情熱・粘り・知恵と工夫…。さすがに彼らを讃える適切な言葉を言い出せない。

### (2) センター設立10周年記念講演会

―増田寛也氏を迎えて―  
センターの事業のもうひとつの柱は「地域政策の研究」である。所長在任2年目がセンター設立10周年の年となり、記念講演会を実施した。テーマは「地域主権改革と地方政府のあり方」、講師は増田寛也氏。国土交通省のキャリア職員から岩手県知事、総務大臣を務めて、テレビ出演も多く知名度も高い。

当日は、センター設立の提唱者でもある加戸守行知事にも参加して頂いた。また、講演会終了後に講師を坂の上の雲ミュージアムに案内した際には、中村時広松山市長が急きょ駆けつけて頂いた。増田氏と加戸知事、中村市長とは旧知の間柄であり、大層喜ばれたことも主催者として嬉しく思った。



財団法人えひめ地域政策研究センター  
設立10周年記念講演会  
講師 野村会館理事長 増田 寛也氏

## 愛媛県職員としての37年間

(1) 37年間で15の部署に勤務  
37年間で15か所に勤務した。最短1年、最長5年。多くの人々との出会いがあつた。私の退職に伴い、私一人のための送別会が10回催された。それらの集大成のような最

後の会で「私が出会った有名人」というタイトルで顔写真とコメントをつけた資料を配りスピーチをした。かなり受けた。（と思っ  
ている。）

ジャイアント馬場、堺屋太一、丹下健三、皇太子殿下、瀬島龍三、内田康夫、天皇・皇后両陛下、木村佳乃、大杉漣、石原さとみ、天野祐吉、早坂暁、増田寛也、後藤謙次  
……。〈出会った順〉

仕事で深い付き合いのあつた方はもちろん、接点のあつた時間は短くともこれらの著名な人々との出会いによって、私の公務員人生が彩り豊かなものとなった。

## (2) 作家内田康夫氏との楽しい出会い

今から20年前、観光物産課で内田氏の突然の訪問を受けた。愛媛を舞台にしたミステリー小説を書きたいので助言してほしいとのこと。久万町と内子・大洲を提案した。結果として内子・大洲が採用され、4か月後にサイン入りの本が送られてきた。「坊っちゃん殺人事件」である。

最初の出会いは10年後、東京のホテルで再会した。しまなみ海道を舞台としたミステリー小説を書いてもらいたい、それをテレビドラマにもして頂きたいとお願いをした。内田氏は快諾されたが、現在4本の作品を執筆中であり、着手は早くして1年後になるとのこと。では、10年前の作品「坊っちゃん殺人事件」のテレビドラマ化にご尽



力にいただきたい。結果は、すべてがうまくいった。その年のうちにテレビドラマのロケが始まり、浅見光彦シリーズ「坊っちゃん殺人事件」としてTBS系列（県

内…あいテレビ）で放送された。その後、約束どおり取材が始まり小説「しまなみ幻想」が完成し、テレビドラマにもなった。

なお私は「坊っちゃん殺人事件」では観光課職員として、「しまなみ幻想」では犯人を逮捕する森川刑事として登場しており、私にとつても記念すべき作品となっている。

## 次代を担っていく人たちに

―型やぶりのすすめ―  
標題の「型があつての型やぶり」とは歌舞伎の世界の格言である。日本の伝統芸能である歌舞伎の世界では一つひとつの芸の基本（型）をしっかりと身につけることに精進し、その型をマスターした者にのみ型やぶりの演技が許されるという意味合いである。

それに加えて、伝統を重んじる歌舞伎の世界にあって、伝統の技を超える新しい技（型やぶり）への挑戦が許されるということも意味しており、その懐の深さにも魅かれ

るものがある。役所であれ、企業であれ、いろいろな組織の一員としての個人は基本（型）をしっかりとマスターすることが求められるのであるが、それにとどまることなく、型やぶりへの挑戦（新しい取り組みへの挑戦）を是非とも心がけてもらいたい。

冒頭に触れた四国を代表するカリスマ4人の方は、まさに型やぶりの技に全身全霊を傾けて挑戦して成功をおさめられたものと確信している。

## （財）愛媛県埋蔵文化財調査センターにて

私は本年4月から県埋文センターに職を得ている。定年退職後の再就職であるが、引き続き県政と関わりが深いところで仕事ができることを大変有難く思っている。

埋蔵文化財に関心と興味のある方はもちろんのこと、そつちの方面はあまり…という方も是非一度お立ち寄り頂きたい。



所在地：松山市衣山4丁目68番地1  
（伊予鉄「西衣山駅」から徒歩1分、広い駐車場あり）  
電話：089-911-0502

# 歩キ目デス & 足ラテス

Vol.57

## 海運業の家、油屋菊池清治家 八幡浜市浜之町

岡崎 直司

タウンツーリズム講座主宰・  
ヘリテージマネージャー

八幡浜市には、意外にレトロな建物が多く残されている。県内の主要な都市の中では、戦災に遭っていないことが大きい。それと、南予特有のリアス式海岸に立地した良港の敷地要件から、江戸期より狭隘な土地を埋め立て街区を形成していった為に、戦後のモーターゼーションによる都市変革、道路整備が遅れた。道路拡幅は歴史景観から見れば大敵で、どここの町もその施策により歴史が積み重ねた地域個性を消滅させている。前置きが長くなった、菊池邸の事である。

市中心部、道路幅3.5メートルの浜之町に面して、商家建築菊池清治邸が存在する。その名の如く、江戸期は海に面していた通りで、北側では船場通りと直交する。筋向かいには、文政5年(1822)創業の若松旗店があり、今なお現役で港町の風情を伝えている。



菊池邸正面

(※1) 宇和紡績(株)の看板



本家と五菊池五兵衛、大黒屋野本家、本町西村家などと合わせて一万八千両が藩に上納された。(※2) 本家菊池宏氏の調べによれば、現在の貨幣価値だと数億円の規模になる。

またこの年は日本史上でも大転換期で、二条城にて徳川慶喜に対し宇和島藩主伊達宗城と土佐藩後藤象二郎などが大政奉還を言明しており、まさに翌年が明治元年となる訳で、いよいよ近代の始まりという激動の時代背景である。宇和島藩としてもモノ入りの台所事情を、こうして八幡浜の商人たちが裏で支えたことは、存外一般には知られていない。

さてそうした菊池家であるが、様々な商いをしてきた事が伺えるも、主体は海運業で



文政年間、菊池清治正明の銘がある中庭の常夜灯



菊池邸の“持ち送り”

※1. 菊池家蔵の看板。宇和紡績は明治21年、四国最初の紡績会社として登場。



左がドウグラ(道具倉か?)、右がシンクラ(新倉)

あったようで、早くも明治10年(※3)には外輪蒸気船の八幡丸が竣工し、瀬戸内海航路を開いている。蔵にはその当時の貴重な船首飾りが残されているが、西洋なら女神像となる所を日本風に鳳凰が型どられていて面白い。よく見ると金漆が塗られていたらしく、進水の際にはさつそうと輝いて時代の水先を切っていた様が想像される。

宇和島藩は、八幡浜出身の飾り職人提灯屋嘉造(後の前原功山)に蒸気船建造を命じ、湾内を走らせ、惜しくも歴史上は国内で薩摩に次いで二番目だったが、それはお上(藩)が威信をかけてした事。それからわずか19年



八幡丸の船首飾り「鳳凰」

後には民間の商人が独力で蒸気船建造が出来ようになるまで、当時の日本あるいはこの地方は早くも殖産興業の活況下にあったと言える。

面白いと言えば、この家からは他にも大変なものが見つかった。日本最古と言われる自転車である。平成17年のこと、9代目ご当主が蔵を整理されていて発見。その後、現在は大阪府堺市にあるシマノ自転車博物館に寄贈展示されているが、今春にはこの菊池邸で晴れて市民にもお披露目の里帰り展示となった。この国内でも貴重な三輪自転車は、その後の市民活動で、レプリカを作製するべ



7代目菊池清治と三輪自転車

く準備中である。やがてこの家からは、7代目菊池清治が乗った姿の古写真も見つかり、左に掲載させてもらった。撮影年が不明だが、清治氏が八幡浜町長時代ではないかとの事。氏は松山高校の校長を経、戦後初の八幡浜市長ともなっている。当時、土木課建築係に席を置き、後に日土小学校を設計した建築家松村正恒は、存分に腕をふるえたのは、この菊池市長に理解をして頂いたお陰と後年述懐している。そういう東大物理学出身の仁徳者であり、八幡浜市名誉市民ともなっている。

しかし、現在建物は外観以上に老朽化で風前の灯となっており、八幡浜の歴史核がこれ以上消える事のないよう、江戸期創業の若松旗店同様に界限性の維持が今後の大きな市民的課題となっている。

※2. 井上憲久氏の清水家文書研究による。

※3. 「瀬戸内近代海運草創史」山崎善啓著より。旧八幡浜市誌には明治8年とあり、調査中。

## センターからのお知らせ

### 地域づくり人集まれ～！地域づくり人研修&交流会2011のご案内

センターでは、地域づくりに携わる方々が大切にしている人と人とのネットワークづくりを支援したいと考えております。

つきましては、「地域づくり人研修&交流会2011」を次のとおり開催いたします。フィールドワークで楽しみながら、お互いの活動についての情報交換や交流を行っていただきたいと思います。

**日時**：平成23年11月5日(土) 10:30～17:00 ※交流会17:30～19:30

**場所**：愛媛県身体障害者福祉センター（松山市道後町2丁目12番11号）

**参加費**：無料 ※交流会4,000円

#### 【申し込み・お問い合わせ】

えひめ地域政策研究センター 担当：大政

TEL089-926-2200 FAX089-926-2205 E-mail: info@ecpr.or.jp

※参加される方の希望により、参加者が活動する地域づくり団体の状況についてセンターホームページに掲載し広く周知することも可能です。

### 「愛媛暮らしの魅力体験フォトエッセイ」募集！！（愛媛県外在住の方へ）

愛媛の地で見て感じた「愛媛暮らしの魅力」について、愛媛県外在住の方からの体験をフォトエッセイ（写真付きエッセイ）として募集しています。

#### 【募集内容】

愛媛県に滞在している間に感じた魅力的な体験をエッセイにし、関連する写真を添付してください。応募作品の入賞審査はエッセイ原稿の内容を重視します。

○題名（タイトル）／15字以内 ○エッセイ原稿／1,200字～1,600字 ○写真／1～3枚

#### 【応募資格】

愛媛県を訪れたことがある愛媛県外在住の方

（愛媛県出身で現在県外在住の方の応募も大歓迎です。※プロ・アマは問いません。）

#### 【入賞（懸賞）内容】

○最優秀賞（1名様）賞金 30万円

○優秀賞（2名様）愛媛県産品詰め合わせ 5万円相当

○佳作（5名様）愛媛県産品詰め合わせ 2万円相当

※未成年者は受賞の際、保護者の同意が必要となります。

#### 【締め切り】

平成23年11月30日(水) ※郵送の場合は当日消印有効

#### 【応募先・問合せ先（事務局）】

〒790-0065 愛媛県松山市宮西一丁目5番19号 愛媛県商工会連合会館3階

財団法人 えひめ地域政策研究センター内 愛媛ふるさと暮らし応援センター

「愛媛暮らしの魅力体験フォトエッセイ」係宛

電話／089-922-4110 Eメールアドレス／info@e-iju.net

詳しくはこちらをご覧ください↓

▽「愛媛暮らしの魅力体験フォトエッセイ」実施要領<http://www.ecpr.or.jp/sakiyama/H23.7kurashi2.pdf>

◎これらの応募に関するお問い合わせ先

（財）えひめ地域政策研究センター

TEL (089) 926-2200 FAX (089) 926-2205

Information  
センターからのお知らせ

#### 【センター共催事業】

##### 年輪塾公開セミナー「今も生き続ける尊徳精神」

日時：平成23年11月19日(土) 13:00～

場所：伊予市双海町 翠小学校

参加費：1,000円（別途 食育座談会1,500円、そんとく交流会4,000円 宿泊費3,500円）

申し込み・お問い合わせ：年輪塾大番頭 米湊誠二 090-2891-8083

小番頭 松本 宏 090-3460-2685 e-mail: futamintyu@gmail.com

#### 【センター後援事業】

##### 日本政策投資銀行10月開催シンポジウム テーマ：「活力ある持続可能な地域社会の実現に向けて」

日時：平成23年10月25日(火) 13:20～16:00

場所：全日空ホテルダイヤモンドボールルーム

参加費：無料

申し込み・お問い合わせ先：(株)日本政策投資銀行松山事務所 089-921-8211

##### 松下政経塾今治フォーラム「観光戦略で未来を拓く！」

～今治から描く愛媛・日本の長期繁栄ビジョン～

日時：平成23年12月3日(土) 13:00～16:30 ※懇親会17:00～

場所：今治地域地場産業振興センター 展示ホール

参加費：無料 ※懇親会は3,000円

申し込み：松下政経塾ホームページ <http://www.mskj.or.jp>

問い合わせ先：公益財団法人松下政経塾 丹下大輔 080-4385-1059

#### 【県からのお知らせ】

##### 「全国過疎問題シンポジウム2011 in えひめ」の開催について

今後の過疎対策のあり方等について、行政関係者をはじめ、地域づくり関係者などが一堂に会して、幅広く議論を深めるとともに、参加者相互の情報交換と交流を図るため、標記シンポジウムを次のとおり開催いたします。ふるってご参加ください。

#### 【シンポジウム概要】

1.開催時期：平成23年10月13日(木曜)から10月14日(金曜)

2.開催場所：◇全体会／交流会(1日目) 西予市：宇和文化会館 大ホール／中ホール

◇分科会(2日目) 宇和島市：きさいや広場屋外ステージ ほか

3.メインテーマ

「過疎地域の底力 ～地域再生への新たな決意～」

※詳しくは[http://www.pref.ehime.jp/h12900/1195469\\_3394.html](http://www.pref.ehime.jp/h12900/1195469_3394.html) をご覧ください

お問い合わせ先：全国過疎問題シンポジウム実行委員会（愛媛県庁企画振興部地域政策課）

TEL：089-912-2261 FAX：089-912-2969

#### ☆研究員ブログ日々更新中～地域の取り組みをご紹介します～☆

「研究員ブログ」を日々更新していますので、是非ご覧ください。また、各地の地域づくりの取り組み・イベント等もPRしていきたいと思っておりますので、「こんなところにこんないい活動をしているところがある」とか「ここに行けばこんなものが見られる」といったものがあれば、どんどん情報を提供してください。（メールアドレス：info@ecpr.or.jp、電話番号：089-926-2200）

研究員が現地に訪問していろいろとお話を聞かせていただき、活動内容等をホームページや舞たうん等に掲載し、情報発信いたします。

みんな笑顔でむかえてほしい、  
日本の秋。

# オ～タム ジャ～ンボ 宝くじ～!

2011年 新市町村振興宝くじ オータムジャンボ宝くじ

1等約換  
金むかえて

## 2億5,000万円 売り切れしだい発売終了!

●1等:1億5,000万円/前後賞各5,000万円  
●発売期間 9月26日(月)～10月14日(金) ●抽せん日 10月21日(金)

この宝くじの収益金は市町村の明るいまちづくりや環境対策、高齢化対策など地域住民の福祉向上のために使われます。

**9/26**  
月発売



**1枚300円**

財団法人全国市町村振興協会

### 【編集後記】

私も趣味で油絵を描きますが、今回の特集で紹介した「素心居」に行つて障がいのある人の絵画と陶芸作品を見た時は、「へえー、ほおー」と驚きの連続でした。自分が今まで知らなかったというか、気付かなくて、使つたことのない色や色使い、思いつかない構図等々、全てが新鮮で感動と衝撃を受けました。

それともう一つ、障がいのある子供を持つお父さんが仰られた「自分の子供に障がいがあつても、今は自分が見ることが出来る。でも将来は、自分の方が子供よりも先に死ぬ。その時に残した子供のことが心配では、「死ぬに死ねない」との一言が頭から離れません。

今の自分に何が出来るのか何をすれば良いのかとか、あれこれ考える前に何からでも始めてみようと思う。  
(河野)

内容についてのご意見やまちづくり活動のトピックなどありましたら、お気軽に『舞たうん』編集係までお寄せください。

〒79010065

松山市宮西一丁目五番十九号

愛媛県商工会連合会館三階

(財)えひめ地域政策研究センター

TEL 089(922)2200

FAX 089(922)2205

発行/平成二十三年十月一日

(財)えひめ地域政策

研究センター

印刷/岡田印刷株式会社

<http://www.ecpr.or.jp> E-mail: [info@ecpr.or.jp](mailto:info@ecpr.or.jp)

本誌は、(財)愛媛県市町村振興協会の委託を受けて発行しています。